

パネル発表「飼育引き継ぎ集会3・4年生の発表から」

中川美穂子

1 はじめに

東京都西東京市では、平成3年から公立小学校の動物飼育に関して獣医師の支援体制がある。そのうち学年児童全員で飼育にかかわる小学校は12校あるが、このうち2小学校で動物飼育体験を総合の「命の教育」として活用している。これらの小学校では、春の飼育導入授業を行い、児童の飼育活動への関心が高め、以後の飼育活動に意欲的にかかわるように配慮する。児童は、動物に関心をもって、いやな糞尿の処置などをしていくうちに、動物を理解し、愛情を感じて、より深い興味をもち観察していく。学年末に次の学年に飼育を引き継ぐ集会を行うが、児童は各自、動物の営みについての課題を見つけ、調査して発表する。その発表には主体的な課題解決への意欲が現れている

2 飼育導入授業の様子

(1) 目的：飼育を担当する子どもたちに、獣医師の支援のもと、動物の気持ちや体のことを伝えながら、動物との接触体験で生き物への関心を誘う。また、これ以後、子ども達が情をもって動物の世話をすることで、より観察が細くなり、生体の営みを理解し、弱いものへの思いやりや接触した喜び、生物にたいする科学的興味を培うように期待する。

(2) 動物の話しのポイント：

- ・動物は自然では、糞と一緒に生活しなくても良いが、小屋では掃除が必要なので、人が清潔にしてあげる。(労働・協力・達成感)
- ・人間は3回食べる。動物も、朝に餌と水を与え、午後にきれいに掃除して、また餌と水を与える。(生命維持・おもいやり)
- ・動物は話せないから、人が「何をして欲しいか、困ってないか」など、体と表情から洞察する。(観察・洞察・心的視点移動)
- ・動物は、体の大きな存在である「人」を怖がっている。その動物達を安心させるように、優しい気持ちで、抱かせてもらう。(寛容・思いやり・謙虚)

3 学年飼育活動の成果

導入授業を受けて動物に関心を持った児童は、1週間交代で担当する世話を通じて、「生き物ら

しさ(感情と体を持つ)」を理解し、動物の健康を常に気にするようになる。同時に、思いやりをもって、様々な疑問に意欲的に関わっていく。学期末の「飼育引き継ぎ集会」では、クラスや班ごとに、動物の体や環境、動物間の闘争などの問題、世話の工夫などをまとめて、下級生に対して「研究発表」を行う。

4年生から3年生に・引き継ぎ集会



課題研究班

体の仕組みチーム
 チーム土
 ひな・親はなしチーム
 観察チーム
 うさぎトイレチーム
 にわとり三歩
 うさぎのふん対策チーム
 仲良しチーム
 包丁とぎチーム
 ちゃぼウオッチング
 にわとりの飼い方
 しつけチーム
 えきブラボー
 すずめチーム

H18年度3学期
 4年2組 発表

このような適切な導入授業の後、児童の日常の中に動物が居て世話をする継続飼育は、心の教育とともに、生物教育の基礎としても活用意義が高いと言える。

(学校飼育動物研究会事務局長

／中川動物病院西東京市学校獣医師)